

香蘭女子短期大学

評価短期大学の概要

設置者 学校法人 山内学園
理事長 山内 昭人
学 長 坂根 康秀
A L O 藤井 美保
開設年月日 昭和 33 年 4 月 1 日
所在地 福岡県福岡市南区横手 1 - 2 - 1

設置学科および入学定員

学科	専攻	入学定員
ライフプランニング総合		230
食物栄養		50
被服		150
保育		150
	合 計	580

専攻科および入学定員

なし

機関別評価結果

1. 機関別評価結果

香蘭女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 18 年 3 月 23 日付で適格と認める。

2. 機関別評価結果の事由

香蘭女子短期大学の設置母体である学校法人山内学園は、香蘭ファッションデザイン専門学校、香蘭女子短期大学附属幼稚園、香蘭女子短期大学附属那珂川第一幼稚園、香蘭女子短期大学附属那珂川第二幼稚園等を擁する学校法人である。当該短期大学は、昭和 10 年に開学したレデードレス香蘭女学院を前身に持ち、昭和 33 年に香蘭女子短期大学として開学した。その後、幾度かの学科の改廃を行い、今日では被服学科、食物栄養学科、保育学科、ライフプランニング総合学科の 4 学科の体制を整えるに至っている。

平成 17 年 1 月 20 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

創立者が掲げた建学の精神「如何なる苦難、困難にも挫けることのない強くてしなやかな人（女性）の育成」を昭和 10 年以来一貫して継承しながら、平成 6 年には時代の価値観の変化に対応して、「教育の基本理念・目指す人間像について」の見直しを行っている。そして、それを分かりやすい学訓（「創意・自立・敬愛」）のかたちで、全学への浸透を図っている。具体的には、学訓碑を設置し、「学生便覧」や「入学のしおり」にも学訓を掲載して周知を図っている。各学科においては、教育目標が具体的な項目として示され、学科長による特別時間等で学生に周知徹底されている。

教育の内容、教育課程については、それぞれの学科のニーズに合った教育課程が体系的によく編成されており、授業は学生のために誠実に実施されている。食物栄養学科、保育学科については資格取得のためのカリキュラムが整備されており、その取得率は高く評価できる。被服学科とライフプランニング総合学科では、極めて多様なニーズに応えるべく工夫がなされているうえ、資格取得についても、きめ細かな取組みがなされており、学生への高いサービス提供が行われていると判断できる。平成 12 年からファカルティ・ディベ

ロップメント（FD）委員会を設置し、学生による授業評価の実施、FD 委員会誌の発行、研修会、カリキュラム検討会を開催する等、毎年努力の跡がみられる。

学生支援については、学生便覧等、学習支援のための印刷物が発行されており、入学時と各学期オリエンテーションで適切な指導がされている。また、学力不足の学生に対する指導も十分に行われている一方で、優秀な学生にもより一層の学習の機会が設けられている。奨学金制度、学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制も整っている。進路支援については、学生一人ひとりの希望を把握してきめ細かな指導を行い、全国平均を上回る就職率を上げており、編入学に関する支援体制も充実している。留学生や社会人学生、長期履修生等多様な学生に対する支援の取組みもなされている。

教育を重視しているなかで、被服学科が共同で取り組んだ被服構成の研究会の研究は、注目される。研究活動の環境としては、研究室、研究用実験室、研修日が確保されている。

社会的活動については、平成 15 年度から公開講座を多数開催し、また地方公共団体と多くの事業を行っているほか、高大連携としての出前講義は他の短期大学の模範となるべきものである。加えて、「短期大学の将来構想に関する研究会」の幹事校として、卒業生の実態を把握する活動を行っている。

理事長はリーダーシップを発揮し、教職員からの信頼が十分得られている。理事会、監事、評議員会は寄附行為の規定に基づき適切に運営されており、学則に基づいて教授会が開催されている。事務部門の組織は確立されており、諸規程を整備し、それらに基づき適切に業務が行われており、教員と事務職員が互いの立場を尊重しつつ緊密に連携する体制が整備されている。

財務に関しては、中・長期財務計画を明確に持っており、私立学校法の改正に伴い、財務情報を公開している。経営は健全であり、教育研究費比率も適切と言える。また、必要な施設設備が整備され、その管理が適切に行われている。

自己点検・評価活動については、教学活動点検委員会を設置し、定期的に自己点検・評価を行い、点検報告書を作成している。また、過去 2 回にわたり鈴峯女子短期大学と相互評価を実施している。

3. 優れている点及び向上・充実のための課題

(1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- ・ 毎週火曜日 1 限目を全学科ともクラスミーティングのための時間として、教育目標を徹底・理解させるために有効利用している。

評価領域 教育の内容

- ・ ライフプランニング総合学科のユニット履修は、専門分野を包括的に把握することができる優れた履修方法である。バイキング方式を学際的視点から体系付けようとする工夫が見られる上、教養科目が適切にカリキュラムに組み込まれている。
- ・ 兼任を含む教員からカリキュラム検討の企画を募集して改善を図り、また FD 委員会通信を発行し、FD 活動をスムーズに展開している。
- ・ 単なる知識・技術の伝達ではなく、自ら求めるその道を追求して行く人材の養成が行われている。

評価領域 教育の実施体制

- ・ 被服学科では CAD も導入されており、先進性が認められる。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

- ・ OG 懇談会、保育学科の新任保育者研究会、同窓会等卒業生と交流する場を設け、教育目標の達成度を確認している。

評価領域 学生支援

- ・ 独自の奨学金制度があり、学業優秀な学生を顕彰するにあたって、年度途中で審査が行われている。

評価領域 社会的活動

- ・ 高大連携としての出前講義を福岡県内だけではなく、近県 6 県を対象に展開しており、実績も上げている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域 研究

- ・ 研究業績は多いとはいえないので、改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし